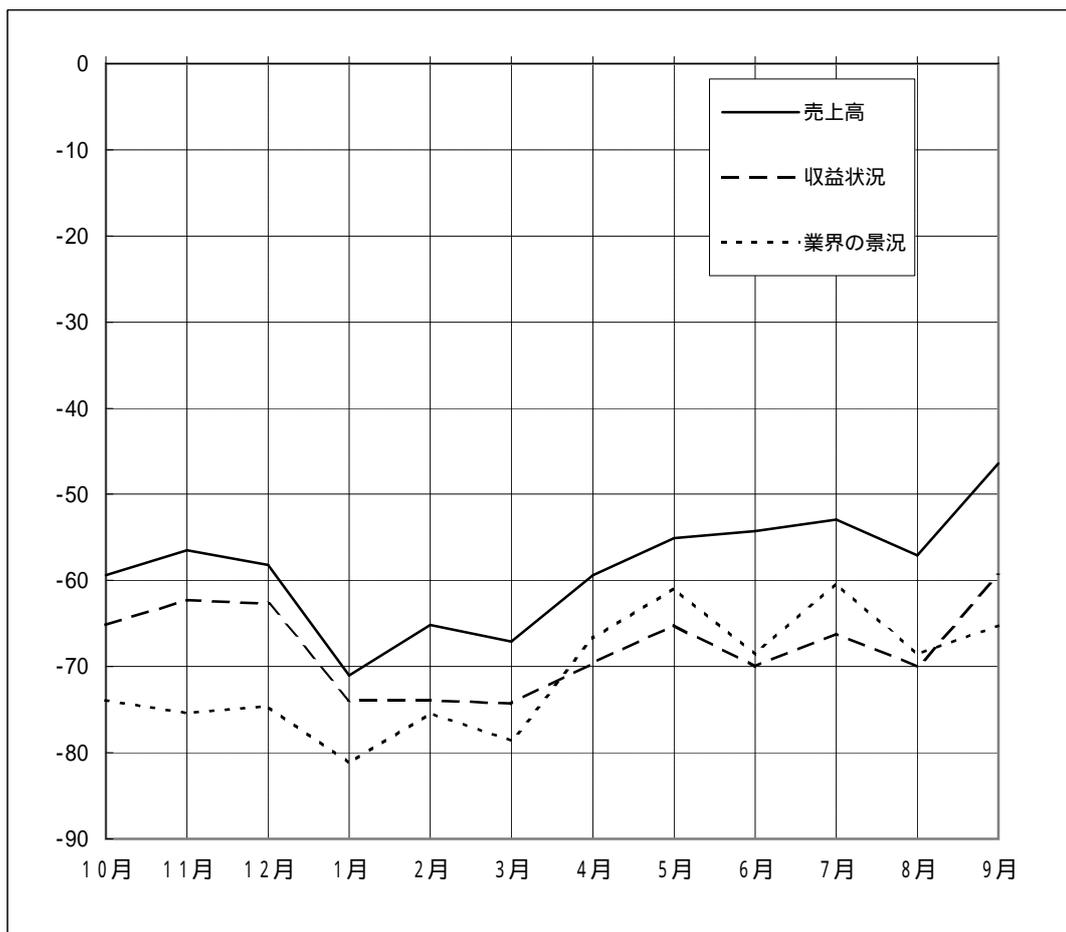


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値

平成13年10月～平成14年9月

単位:ポイント



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
売上高	-59.4	-56.5	-58.2	-71.0	-65.2	-67.1	-59.4	-55.1	-54.3	-52.9	-57.1	-46.4
収益状況	-65.2	-62.3	-62.7	-73.9	-73.9	-74.3	-69.6	-65.2	-70.0	-66.2	-70.0	-59.4
業界の景況	-73.9	-75.4	-74.6	-81.2	-75.4	-78.6	-66.7	-60.9	-68.6	-60.3	-68.6	-65.2

9月のDI値をみると、3項目全てが前月より改善されたが、景況感は4月より一進一退。「景況」は前月より3.4ポイントの改善に止まったものの、4月より-60%台を維持している。「売上高」は10.7ポイントの改善で-40%台に、「収益状況」も10.6ポイントの改善で-50%台と前月より大幅な改善となり、両項目とも昨年8月以来の水準に戻ったことから、中小企業の業況は、一部に持ち直しの動きが見られるものの、景況感の大幅な改善には至らず、引き続き厳しい環境下にある。

業種別の「景況」をみると、製造業では、悪化とする割合が変わらない中で、「窯業・土石製品」で悪化とする割合が減り、「一般機器」を含め、「鉄鋼・金属」「木材・木製品」で悪化の割合が高く、また、非製造業では、好転とする業種がみられない中で、総体的には製造業より景況感が良く、「サービス業」「運輸業」で悪化とする割合が減り、「鉱業」を含め「商店街」「卸売・小売業」で悪化の割合が高くなっている。

組合の特記事項からは、「鉄鋼・金属」「木材・木製品」を含めた製造業では、受注の減少や受注単価の下落等による売上高の減少等の他、倒産・廃業の報告と金融政策の対応不安視の報告、「商店街」「卸・小売業」を含めた非製造業では、販売単価の低下や個人消費の低迷による売上げの減少等の報告がみられた。そんな中で、一部の商店街ではイベント等で賑わい感を取り戻した報告もされているものの、総体的には業種を問わず景気回復感の実感できず、先行きの見通しを危惧する等厳しい現況が窺われる。